

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム 福寿荘Ⅱ(韮原ユニット)	評価実施年月日	平成20年 5月 1日 ~ 5月 14日
評価実施構成員氏名	大山 智子                      松本 望 千葉 佳恵                      川合 美香 青山 詩織                      工藤 結実子		
記録者氏名	大山 智子	記録年月日	平成20年 5月 14日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「一人一人の尊厳ある生活を大切に、住み慣れた地域、社会において安心して暮らせる社会づくり」を理念に掲げ、地域に根ざした運営が行われている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>尊厳あるケアの実践に向けて、日常のケアのあり方をカンファレンスなどで話し合い、理念に基づいているかを問いかけながら、日々取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時から理念に関して説明を行い、来訪の際には理念に基づいた日々の取り組みを随時お伝えし、理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>運営推進会議や地域活動の場等を利用し、広く地域の方々へも理解していただけるよう積極的に取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の方からは、畑作業を通して交流を深め作物の差し入れなど気軽に立ち寄っていただいたり、また散歩時などは、挨拶を交わしたりしながら日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会へ入り、資源回収や町内清掃への参加、回覧情報等、地域の一員として活動、交流をしている。また、消防団の子どもたちが来訪するなど、ボランティアの受け入れを行い地域との交流を図っている。</p>		
<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っており、また地域の高齢者等の暮らしに役立つ情報(認知症や介護に関する情報)の提供、相談、施設見学なども受け入れ地域社会との交流を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うことで、自分たちのケアについて振り返りその意義について理解を深めている。またサービスの質の向上に向け、その評価を活かしケアの改善へ繋げるよう努めている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域住民や家族、行政の職員等、幅広い立場の人に参加をして頂き、積極的な意見交換の場として、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また、テーマについても地域の人々からも意見や要望を伺って双方向的な会議をもてるように配慮している。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市が主催する各種連合会への参加や、研修の受け入れ等積極的に行い、市とともにサービスの向上に努めている。	○	今後も積極的に質の改善・向上にむけて、市ともに事業所の現状に即した密なる連携を図るよう働きかけていきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度については、必要性に応じて関係者との話し合いを行い、活用できるよう支援している。	○	資料などを準備し職員についても学ぶ機会を多くもてるよう、積極的に努めていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々、自分たちの取り組みを振り返りながら、またご家族や来訪者からもご意見を頂き、日常的に虐待防止の意識を持ち、注意を払って防止に努めている。	○	今後も事業所内において虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い、また高齢者虐待防止法等に関しても詳しく理解を深めていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に書面の読みあわせを行い、十分な説明、理解できるよう行っている。また、生活面で変化があるとき(長期的病気治療等)には、家族が不安にならないよう話している。	○	今後も、日頃から十分なコミュニケーションを図る中で、必要性に応じて話し合いの場を持ち、理解、納得のできるように継続して取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の言葉や態度からその想いを察するように日々努め、利用者本位の運営を心掛けている。利用者の'声'を大切に、意見として日々のケアへ反映して安心して暮らす事のできるように配慮している。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>家族が来訪の際には、ケアプラン・日常記録を提示し、利用者の状態変化や金銭出納についても随時報告をしている。また、連絡ノートを活用したり、必要に応じて電話連絡も行っている。</p>	○	<p>日頃より、コミュニケーションを図ることを大切し、記録の提示と共に、日々のエピソードなども加えて報告をしたりしながら、今後も継続し取組んでいきたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>連絡ノートを活用し、来訪の際に家族に意見・要望等を書いてもらい、運営や日々のケアに反映させている。また、定期的に家族会を行い、事業所毎、さらに全体毎へと内容を示している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議等で管理者は職員の意向を報告し情報を共有している。また、常に職員ひとりひとりの意見を聞けるよう、個別の話し合いを多くしている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>どのような状況に対しても柔軟に対応、調整できるような体制を整えている。また、緊急時にはすぐに人員を確保できるように連絡調整を行っている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>管理者の意向を踏まえ、職員の異動を決めている。また、常に異動等による影響を考え入居者の状態を把握し、その変化に対応できるよう努めている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>19 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>常に人材育成を念頭に置き、社内外の研修に広く積極的に参加する機会を設けており、研修後は報告を行い内容の共有を図っている。また、日常的なケアの現場で具体的指導も行っている。</p>		
<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>20 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内・区内の連絡会には積極的に参加できる体制を作り、情報交換、交流をはかり、その活動を通じてネットワーク作りに努めている。</p>		
<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>21 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>組織的にひとり一人のスタッフの状態を把握し、話し合い等においてストレスや悩みを把握する事に努めている。また、研修会などを通じて、地域のケア関係者との交流をはかり、ストレスを緩和する機会をもっている。</p>		
<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>22 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員の資格取得等に向け、支援を行っており、日常的には現場での様子をしっかりと把握、具体的な職場環境の整備、実態の把握に努めている。また、向上心を高めるよう、研修や学習会への参加など、積極的な取り組みを行っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>23 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前見学などから気軽に遊びにきてもらう等、ゆっくりと話ができる機会をつくり、本人の置かれている状況をよく理解した上で、必要なサービスへつなげていけるよう努めている。</p>		
<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>24 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談時から家族支援を念頭に置き適格なサービス利用につなげていける様、十分な時間をかけ話を聴く機会を設けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際、何に関して困っており、その時にどう対応するのか自分たちの提供できるサービスばかりではなく、状態に通じた対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家庭訪問や事業所見学などをしていただき、スタッフや施設の様子を知ってもらい信頼関係をつくりながら入居への環境調整を行っている。また、当事業所に併設されているデイサービスを利用し顔なじみの関係になってから入居へと至ったケースがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活をする'というケア理念に基づいて常に相手の立場に立ち、あるがままのその人を受け入れ、受け入れてもらう中で、ひとり一人に心を寄せて共に支えあえる関係作りに努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の想いに寄り添いながら、日常生活の様子・本人の声を伝え、また家族からも本人や家族自身の話を聴き情報を共有する中で、共に支えあいながらその人を支えていけることの大切さを学ばせてもらっている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の本人への想い、本人の家族への想いを受け止めて、その想いが結びつくような働きがけを心掛けている。また、家族と過ごす時間の大切さをスタッフひとりひとりが認識し、より良い時間を過ごせるように心掛けている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ひとり一人の今までの生活習慣をしっかりと捉え、気軽に友人が尋ねて来られる様働きかけたり、行きつけの店(美容院、飲食店など)へいける様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性を日常のケアにおいて把握し、ひとり一人の状態や状況から集団の中での役割、個性や相性を踏まえた上での関係調整を行い、お互いに支えあえるよう努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も家族と共に遊びに来るなど、必要が要する場合にはいつでも相談にのれるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者のひとり一人の思い・意向について職員は常に心に留めながら、本人との対話を通じ、また利用者の表情や行動からも把握できるように努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人を知る上で、どういう人なのか、好きなもの・生活歴を知ることが大切であることを認識し、家族へも伝える中で情報を提供して頂いている。また、日常生活の様子から何か気づきがあれば家族へ聞いてみるなどして、その人らしさをひきだせる支援を行えるように努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を活用し、ひとり一人の生活リズムを総合的に理解すると共に、日々における気づきを共有する中で、小さな変化にも見落とさないよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人のニーズ・想いをしっかりと反映させる為、アセスメントの時点より家族・本人を含めてスタッフ間で十分な意見交換の場(カンファレンス)を持って作成にあたっている。また、作成された介護計画は家族に説明しており、利用者主体の介護計画になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画が日常のケアの中でどのように実践されているかを具体的に明記する中で評価へとつながりやすいように配慮している。また、利用者の状態変化や本人・家族の要望に応じた見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常記録にプランの実践と結果を記入し、本人の様子がわかりやすくイメージできるように記録のとり方を学習し、情報を共有できるように取り組んでいる。また、カンファレンスノートを作成し気づき・情報の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者・家族の状況を踏まえた外出・外泊のサービスを行っている。また、状態の重度化・進行に伴う住み替え・終末期の支援など柔軟なケアを実践している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近所の方と散歩や畑仕事のときなど交流をしたり、またボランティアも積極的に受け入れながら、色々な社会資源とのつながりを活かし協力を得ながら支援にあたっている。また、避難訓練の時には消防署の方にきてもらい協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人・家族の意向や必要性に応じて訪問理美容を利用したりしながら他のサービス資源を活用し支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加してもらい、必要な協力体制がとれる様関係構築に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	連携医療機関の医師が、定期的に往診を行い、専門医による医療が必要な際には、すぐに受けられるように日頃よりかかりつけ医との連携のもと支援にあたっている。又、家族からも希望があれば往診に同席し相談対応をして頂いたり、今までのかかりつけ医による診療も継続できるように家族、医療機関との協力のもと支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ひとりひとりの状態に応じて診断治療が受けられる様にかかりつけ医と相談、アドバイスをもらっている。また、事業所の理念や方針にもご理解頂き、適切な指示や助言を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が日常的な健康管理を行い、ケアスタッフと情報交換・共有し支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時から、病状の説明を受け、退院後の生活支援ができる様、入院先へ職員が見舞いに行くなどしている。また、早期退院にむけ家族・医療関係者との連携を図っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に「終末期・重度化の生活支援・指針」について説明、ご理解頂き、利用者の心情・状態変化時にはそのつど意向確認を行い、本人・家族・職員等チーム全体で方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期におけるケアについて事業所内の事例などをとくに、事例報告をまとめたりマニュアルを作成し、チーム全体として共有し取り組んでいる。	○	日頃より本人・家族の意志・意向を随時確認し、状態変化に応じて、医師・職員で密に連携をとりながら安心して終末期を過ごせるように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>センター方式を活用し、これまでの暮らしの継続性が損なわれずに、本人の状況に合わせて必要な情報(習慣・好み・これまでの生活の様子・ケアの取り組みについてなど)を提供し、リロケーションダメージを最小限に食い止めるように努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>日常的に尊厳のある生活・ケアの実践をケアプランに基づいて取り組んでおり、利用者のプライバシーを損ねる事のないよう充分に配慮し対応している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常的に本人が場面場面で、自己決定ができる様に、表情や行動・行為などを観察したりその時々状況・状態に合わせた声かけを行ったりしながら、ひとり一人に合わせた方法で選択できるよう援助している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ひとり一人の生活のリズム、個性を大切にその人らしく過ごすことのできるよう家族や本人を含めて情報を共有し日々のケアに取り組んでいる。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の好みや、その人らしさを大切に身だしなみや、おしゃれをして毎日を生き生きと楽しめるよう支援している。</p>	○	<p>家族ともに今までの生活習慣を踏まえううえで、その人らしさを大切にして、これからも積極的に働きかけていきたい。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>「食べる」ということの楽しみや喜びと一緒に感じながらひとり一人の好みや、旬の食材を工夫しながら調理を行い、食事そのものを一日の大切な活動のひとつとしてとりにくんでいる。また、利用者の状態・力量に応じた場面づくりを工夫し取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	今までの生活習慣として、ひとり一人の嗜好品を楽しめるよう本人・家族からの情報を共有し、日常的に取り入れて食事・おやつ等を提供できるように努めている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のリズムやシグナル、またできることできないことをしっかりと見極め、さりげなく誘導をするなどひとりひとりの状態に合わせた援助を行っている。また状態変化に伴って随時見直しを行なっている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の状態や意向を確認しながらゆっくりと入浴ができるよう、本人・職員で日々相談をしながら実施している。	○	入浴時の不安感の強い利用者に対しても、本人の状況に合わせ納得し、安心・満足感の得られるような支援についてカンファレンスを通じ、これからも積極的に取組んでいきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人に合わせた生活リズムを把握し、休息と活動のバランスを考えながら日々のケアに取り組んでいる。また、気持ちよく安心して休めるよう環境(音や人の動きなど)についても配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の生活歴を把握し、一人ひとりに合った楽しみごとや役割を見つけだし、充実感や達成感を持てる様な生活支援を行っている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族との協力のもと、その人の希望や力に応じてお金を所持し、金銭管理の支援を行っている。また、本人のニーズに応じ必要なときには使用できることを伝え、本人が安心して生活できるように働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	家族と共に外出する機会も多く、本人・家族が安心して外出を楽しめるように日々の中で情報を共有して積極的に支援にあたっている。また、気分転換を図るためにも気軽に外へでて、畑や庭で他者と共に交流を図るなどの取り組みをしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人の想いや希望を尊重し、家族・本人と相談・協力をしながら外出ができるような機会を積極的につくり支援にあたっている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望・また必要に応じていつでも電話ができるように働きかけている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人と馴染みの人たちの過ごす時間の大切さを理解した上で、いつでも気軽に訪れることのできるような雰囲気づくりを心がけ、また気兼ねなく過ごす事のできるようスペース(多目的室)を活用してもらうなど、ゆっくりと良い時間を過ごすことのできるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしない ケアに取り組んでいる。	日々のカンファレンスの中で自分たちのケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないかなどを点検している。	○	権利擁護や身体拘束に関する学習を継続し、スタッフ全員が共通理解をもって正しく判断のできるよう努めていきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は利用者の状態把握に努め、見守り・声かけを行い日中は施錠をせず自由な暮らしができるよう支援している。また、利用者が外に出ようなどときにはさりげなく声かけをしたり、無理に引き止めたりはせず状況を見て必要な支援を行う等、安全面には十分に配慮している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜をとおして利用者の所在をしっかりと把握できる様職員が細かに配慮し、入居者の安全を守れるよう努力している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせてながら注意が必要なものは何かを把握し、管理方法等についてはその危険性を十分に理解した上で管理の徹底を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時の対応マニュアルを作成し、ひとり一人の状況から予測される危険について検討を行い、その対応方法の確認・事故防止にむけて取り組んでいる。また、事故の発生した場合には原因と対策をすぐに検討し、家族へも説明報告を行なっている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、おこりうる急変症状や事故に備えて、日頃より対応方法についての確認を行っている。	○	緊急時には慌てずに確実かつ適格な行動がとれるよう、継続的に緊急時の対応や対処についての学習・また連絡システムの確認を行ってきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者参加の避難訓練を年に2回実施しており、防火管理者の指導の下、ボイラー周辺や避難経路の点検を毎日行っている。	○	事業所だけでなく、今後は地域住民・警察・消防署等と連携した災害時対策やさらなる地域との協力体制作りへとむけて積極的に取り組んでいきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ひとりひとりに合わせた安全対応をとりながら自由な生活を送ってもらえるように、家族の来訪時にはケアプランを確認してもらい、また現在の状況・起こりうるリスクその対応方法についてそのつど説明し理解・協力をえている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	特に季節の変わり目には健康管理には十分に配慮し、日頃より入居者の状態の把握に努め、些細な状態の変化・異変でもすぐに管理者・看護師へ報告、必要に応じて連携医師に連絡し対応にあたっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬内容についてはその目的・用法・用量について十分に理解し、服薬による症状の変化を確認する事のできるように、記録し情報の共有に努めている。また、処方薬の変更時にはその注意点(副作用や服薬時間・方法など)についての理解・確認の徹底を行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	できるだけ自然な状態での排泄へつながるように、日頃より排泄パターンをチェックし、食材や乳製品の工夫、水分の確保、活動やマッサージなどひとり一人の状態に応じて工夫する様努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ひとりひとりの状況・状態に応じて積極的に取り組めるようチェック表などを作成し、支援をしている。また定期的にボランティアで歯科医に見てもらい、口腔内の状態を診察・助言等を頂き積極的に取り組んでいる。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ひとり一人の嗜好や栄養バランスを把握し、食事・水分の摂取状況について記録を行い、スタッフ間での情報の共有に努めている。また、本人の状況に合わせて、食べられるときに食べられるものを取れるようにくふうしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	手洗いの徹底・マニュアルを作成し日頃より予防や対応について確認をしている。また、情報の収集を行い流行の際には特に注意を呼びかけて、随時対応にあたり早期発見・早期対応に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 ○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所周りの調理具やふきん類は毎日清潔を保つよう漂白・洗濯し日々衛生管理には注意を払っている。また食材については必ず賞味期限の確認を行い、その日のうちに処理を行うなど安全な使用と管理に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関や建物の周囲はいつもきれいにし、明るい雰囲気をつくる為花をアレンジしたり、コート掛けや傘たても設置、つかい勝手を工夫している。</p>		
<p>81 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>音や人の動き、光、におい等五感刺激に対する配慮を行う中で、季節に合った置物や、飾り付けをし季節感を生活の中に取り入れて、安心してリラックスし過ごせるように心掛けている。</p>		
<p>82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブル、椅子、TVがありゆっくりとくつろげるスペースとして多目的室がある。居間とは別の空間スペースとして一人でゆっくりと過ごしたいときや家族が来訪されたときなどに活用してもらっている。</p>		
<p>83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時や入居後においても、本人の状況に合わせて居心地よく安心して過ごす事できるように、使いたれた馴染みの家具や調度品を置くなど環境づくりに努めている。</p>		
<p>84 ○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>掃除の際など定期的に換気を行い、また外気温や天気、利用者の状態に合わせた温度調整へも十分に配慮し行うよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下両側に手すりの設置、トイレについても一般用のトイレと介助時に十分なスペースのある広いトイレがある。お風呂場に関しても、動線にあわせ手すりを設置し、安全に自立を意識した工夫をしている。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱や失敗・不安を取り除く為にトイレや居室の目印などの工夫、またソファ・TVの配置など環境面からも十分に配慮し取り組んでいる。また、状態の変化があった際には何が原因で混乱しているのかをしっかりとアセスメントし支援するよう努めている。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>敷地内に畑をつくり、野菜や花の栽培・収穫など四季を感じながら、毎日の楽しみごとの一つとして活用している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	①ほぼ全ての利用者
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①毎日ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①ほぼ全ての利用者
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①ほぼ全ての利用者
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②利用者の2/3くらい
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①ほぼ全ての利用者
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①ほぼ全ての利用者
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	①ほぼ全ての家族

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	①ほぼ毎日のように
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	①大いに増えている
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①ほぼ全ての職員が
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①ほぼ全ての利用者
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	①ほぼ全ての家族等が

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) ユニットの特徴として・・・若年性の認知症の方々ととの生活において、病氣と向き合っていく中で本人の不安・戸惑い・辛さを共に感じ、本人の声に心を傾けながらお互いに支えあえる関係づくりを目標にケアにとりくんでいる。どのような時も本人らしさを大切に、本人の戸惑いをしっかりと見極められるように、状況・状態の変化について毎日のカンファレンスなどで気づきを出し合い、本人・家族・スタッフ・医療関係者も含め、チーム全体で情報を共有し取り組んでいる。また、本人と家族が過ごす時間を大切に、日々の様子・本人の声を伝えていく中で、気軽に声をかけてもらったり、意見なども頂くなかで、共に手を取り合いながらご協力頂き、本人を支えていく関係が築けている。